

第5学年 体育科 授業構想シート

授業者 則藤 一起

本実践の主張点	手の着き方と突き放し方に着目して跳び箱運動に取り組むことで、他者との対話が進み、知識を活用し身体を自分の意識で操る技能の向上が見られるであろう。
---------	--

1. 単元名 跳び箱運動～目指せ！ビッグエアー NORINPIC FUZOKU 2019～

2. 5年B組の子ども

<p>本学級の子どもたちは、身体を動かすことが非常に好きである。休憩中、男子はサッカーや野球、ドッジボール、おにごっこ、女子もドッジボールやおにごっこ、また8の字跳びをして過ごすことが多い。そして4月から取り組んでいる8の字跳びは、第2学年から取り組んでいる子どももおり、好意的に取り組んでいる。現時点での3分間361回の記録には驚かされる。体育では、体づくり運動、マット運動、走り高跳び、水泳、投の運動に取り組んだ。「楽しむ」「試す」「見る」「考える」「伝える」を大切にしたいと伝えると、子どもたちは友だちとのかかわりを大切にしながら運動にチャレンジし、友だちの動きを見たり、友だちに教えたりしている。わからないことを自分から聞きに行く姿も少しは増えてきた。</p>
--

3. 何ができるようになるか

探究力	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な技を「もっと大きく跳び越したい」と思い、跳び箱運動に取り組み続ける力 ・友だちの悩みに自分の言葉でアドバイスし、悩みを一緒に解決していく力
省察性	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちのアドバイスや、ICT機器で撮った映像から自分の跳び越し方をふり返り、修正・改善する力

4. 何を学ぶのか

① 単元の目標

<p>跳び箱運動の楽しさや喜びを味わい、手の着き方と突き放し方に着目し、身体を自分の意識で操ることができる。</p>
--

② 教材の価値

<p>本単元では、「より大きく跳び越すこと」を目指す。子どもたちは高さへの欲求があるだろうが、オリンピックの映像を見せたり、手の着き方・突き放し方を意識させたりすることで、様々な跳び越し方を考えさせる。高さに目を向けるのではなく、「大きく跳び越すこと」を目指すことにより、跳び箱運動が苦手な子どもも“自分に合った跳び箱の高さでいいんだ”と安心できると考える。</p> <p>まず、横跳び越しで手の着き方・突き放し方に視点を置くことにより、体幹を意識した跳び越し方になると考える。“どうすれば身体を自分の意識で操り、様々な跳び越し方ができるのか”を問い続けさせ、運動に取り組ませる。安心して跳び越せるように安全面にも気を付け、いろいろな場で運動させることで「切り返し系」と「回転系」の身体感覚を身に付けさせ、さらに発展技につなげていく。</p>

③学年間・教科間のつながり

CHANGE で取り組んでいる「5 B 体力アッププロジェクト」でのコーディネーション運動では体幹を意識させているので、本単元でも常に意識させ「どのようにすれば、左右のバランスを崩さず跳び越せるか」などの課題を設定していく。また「プログラミング」活動での論理的思考を生かし、自分の跳び越し方を整理・分析させる姿につなげたい。保健や食育で身体のことについても知り、身体の動かし方を考えることと関連させる。

5. どのように学ぶのか

①働かせたい思考スキル

くらべる つなげる まとめる 広げる 予想する 見方を変える

②学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習過程

<p>単元計画（全7時間） 本時 5/7</p> <p>●横跳び越しをやってみよう（1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手の着き方を工夫しよう <li style="padding-left: 40px;">着地までどんな風に身体を操るの？ <p>●目指せ！ビッグエア～どうすれば大きな跳び越し方になるだろう～（5時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切り返し系 ・回転系 <li style="padding-left: 40px;">どこに気を付けて跳び越すの？ <li style="padding-left: 40px;">いつ足を伸ばすの？ <li style="padding-left: 40px;">いつ身体を反るの？ など <p>●NORINPIC FUZOKU 2019 で演技をしよう（1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習を生かしてチャレンジしよう 	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;"></td> <td style="text-align: center;">単元における授業づくりのしかけ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">探究力を育む</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな場を設定することで、自分に合った場を選んで活動に取り組めるようにする。 ・手の着き方と突き放し方などの視点を定めることで、友だちの跳び越し方を視点をもって観察させる。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">省察性を育む</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット PC のスロー再生機能や映像を比べるアプリを使い、どこがどのように違うかを可視化することで、「すごいポイント」を共有させる。 ・「どこに気を付けた？」と問うことで、活動に対して考えをもって取り組めるようにする。 </td> </tr> </table>		単元における授業づくりのしかけ	探究力を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな場を設定することで、自分に合った場を選んで活動に取り組めるようにする。 ・手の着き方と突き放し方などの視点を定めることで、友だちの跳び越し方を視点をもって観察させる。 	省察性を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット PC のスロー再生機能や映像を比べるアプリを使い、どこがどのように違うかを可視化することで、「すごいポイント」を共有させる。 ・「どこに気を付けた？」と問うことで、活動に対して考えをもって取り組めるようにする。
	単元における授業づくりのしかけ						
探究力を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな場を設定することで、自分に合った場を選んで活動に取り組めるようにする。 ・手の着き方と突き放し方などの視点を定めることで、友だちの跳び越し方を視点をもって観察させる。 						
省察性を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット PC のスロー再生機能や映像を比べるアプリを使い、どこがどのように違うかを可視化することで、「すごいポイント」を共有させる。 ・「どこに気を付けた？」と問うことで、活動に対して考えをもって取り組めるようにする。 						

6. 何が身に付いたか

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力に適した課題の解決の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取り組みを認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができる。

体育科学習指導本時案

授業者 則藤 一起

日時：令和元年11月3日（日）第2校時（10:10～10:55）

対象：第5学年B組 27人

場所：体育館

本時の主張点	反動をつける位置を話し合うことで、これまで学んだ「突き放し方」と関連させて考え、より大きな跳び越しを求めて何度も何度も跳び越そうとする探究的な学びが実現するであろう。
--------	---

1. 本時の構想と学習課題について

第1～4時で経験した感覚をもとに、本時は大きな台上前転と首跳ね跳びにチャレンジする。初めのアンケートから、跳び箱運動をやや苦手と答えた子どもが4人、苦手と答えた子どもが5人の計9人が苦手意識をもっている。そのため場の設定は、安心して“やってみよう”と思えることを第一に考える。準備の運動では、跳び越し方の基礎となる感じをつかませるために、舞台からの前転をする。そこで身体を反る感じを味合わせる。そしてこの運動を少し段があるところでもできるように、段階に応じた場を設定しどんどんチャレンジさせていく。途中のふり返りでは、前半で撮影した映像をもとに「どのタイミングで足を伸ばすのか？」という問いを投げかけ、技のポイントを考えさせる。スロー再生機能を活用して動きを見ることにより、足の運び方や突き放しのタイミング、腰の位置などに気づかせたい。後半のチャレンジタイムでは、iPadを活用することで自分の跳び越し方をふり返り、気付いたポイントを意識して運動できることを目標とする。

2. 本時における探究的な学びと省察性の働き

“かっこよく跳び越したい”というのが子どもたちの思いである。かっこよくというのを「大きく」と捉え、本時では「より大きく跳び越せる方法を考えること」が探究的な学びである。“どうすれば大きく跳び越すことができるのか”について取り組んでいくときに、足の運び方や突き放しのタイミングを考え、その方法で跳び越したときに、今まで以上の大きさの跳び越し方になっているのかをふり返らせる。“足が伸ばせていないな”“手を突き放すのは、足が〇〇の位置ぐらいに来たときだ”など、自分の跳べない理由について考えさせる。そして、そのための動きに合った運動ができる場を準備しておく。動かし方の感覚をつかめていない子どもには、足を伸ばす方法を考えさせ、場を選ばせるようにする。

3. 本時で活用・発揮したいこれまでの学び

これまで、自分で「試す」、友だちの運動を「見る」、どうしたらできるのかを「考える」、友だちに「伝える」ということを大切にしてきたので、跳べない理由（突き放しが上手くいっていない、足を伸ばすタイミングが悪いなど）を自分なりに分析できるであろう。本時で突き放しや足を伸ばす方法を考えさせることで、大きな台上前転や首跳ね跳びにつながるようにしたい。そして上手くいった時の跳び越し方をくり返すことで、「突き放し」をさらに意識し、大きく跳べるようにしていく。

4. 本時の目標

突き放しや足を伸ばすタイミング、腰の位置を考え、より大きく跳び越すことができる。(知識・技能)

5. 本時の展開

学習活動と予想される子どもの反応	留意点・評価
<p>1. 場の準備と準備運動（壁倒立やうさぎ跳び、強い踏み切りなど）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 手をさっと突き放すぞ。 ○ お尻をしっかり上げるぞ。 <p>2. かかえ込み跳びタイム</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身体が前に出てきたぞ。 <p>3. 課題の確認とチャレンジタイム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで協力し、安全に気を付けて場の準備に取り組ませる。 ・ お尻が高く上がっているかを子ども同士で確認させる。(協働) ・ 自分の課題に応じた運動ができるように様々な場を用意する。(主体)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>どうすれば首跳ね跳びができるのだろう。</p> </div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 首で押す感じではねる。 ○ いや、手で押すんじゃないかな。 ○ 足を大きく突き上げればいいんだよ。 ○ どこで足を伸ばせばいいのか分からないな。 <p>4. 動きの共有（その後チャレンジタイム）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身体を反るタイミングはいつだろう。 ○ もう少し早く足を伸ばそう。 <p>5. ふり返りと次時に向けて、片付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 突き放す前に足を伸ばしておくことが大事だな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉で表現するのが難しければ、実際に子どもに試技させ、クラスで共有させる。(協働) ・ 自分の力に合った場で運動をしているか観察し、必要に応じて助言をする。(省察) ・ 身体を反る方法や突き放し方に目を向けさせ、首跳ね跳びをしようとしているかを見させる。(協働) ・ 全体で共有できるように、プロジェクターで拡大して、話し合わせる。(協働) ・ 話し合ったことをもとに、自分の跳び越し方をふり返り運動しているか観察し、必要に応じて助言する。(省察) <p>知突き放しや足を伸ばすタイミング、腰の位置を考え、より大きく跳び越すことができる。(活動の観察・学習カード)</p>